巻　頭　言

「スピード, チャレンジ, クリエイト」

会長
小　西　正　己

今年度の会社スローガンは、「スピード, チャレンジ, クリエイト。テンは一番の商品をつくります。私達は徹底して追求します。」です。また、会社の使命は、「エレクトロニクス技術をベースに、安全性と快適さを追求した商品を創り出し、社会に貢献する。」です。

20世紀は、車社会といわれるほど、車は我々の生活に密着し、いまや世界の10人に一人は車を持つほど普及し、世界経済そのものも、車による人や物の移動なくしては成立しえなくなっています。当社も、1955年に、日本最初のオートラジオを、国産初の乗用車クラウンにご採用いただき、以来カーオーディオ事業を中心に発展してきましたが、その過程は、まさに上記のスローガンと使命を追求した賜物であると思います。

一方、車のもたらす副作用、たとえば、交通事故や渋滞、あるいは大気汚染などが、最近顕著になり、これによる損失は膨大で、日本だけでも、年間12兆円に達するという試算もあります。

いま、日米欧各々で、これらの副作用を解決し、自動車交通の姿を一変させるシステムすなわち ITS (Intelligent Transport Systems)の開発競争が激しく進められています。これまで、日米欧は、それぞれ独自にプロジェクトを進めており、各々特徴があります。しかし、国を越えた交通・貿易を考えると、システムの国際標準化は必須です。この場合標準システムに選定された国や企業は、最終的に「百兆円以上？」とみられる事業を独占することになるため、主導権争いは必然的に過熱したものになっています。現状では、欧州リードの分野が多く、日本としては、大変懸念されるところです。

ひるがえって、このシステムを支えるキー技術は、光や電波による視覚・通信および表示機能です。具体的には、レーダ、画像認識、

路－車・車－車間通信、ナビ、カーマルチメディア、音声認識・合成などの技術で、まさに当社のコア技術そのものです。

しかし、この分野では、今あらゆることが、大変なスピードで変革しつつあります。このような、ボーダレスの大競争時代を乗り切るには、現在の技術の延長線上のみで考えていては駄目で、限りない革新が不可欠です。そのためには、ユーザのニーズを的確につかみ、常にベストとは何かを心がけ、新しいアイデアが浮かんだら、積極的に提案し、それを実現することが必要です。来るべき21世紀を住み易く豊かな社会にすることが、我々の使命であり、それにより、我々の生活も充実し、社会も発展できます。

今年こそ、将来のために、我々全員で、会社スローガンを肝に銘じ、それぞれの仕事に眞剣に取り組まねばなりません。